

平成31年度 前期選抜試験

I 期 一 般

国 語

注 意

- (1) 合図があるまでこの問題用紙は開かないこと。
- (2) 説明にしたがって、解答用紙に受験番号・氏名を記入し、受験番号はマークもすること。
- (3) 答えはすべて解答用紙にマークし、解答用紙だけ提出すること。
- (4) 問いにあてはまる答えを^{せんたくし}選択肢より選び、該当する記号にマークすること。

例 問1にオ、問2にウ、問3にアと答えたいとき

問1	<input type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input type="radio"/> ウ	<input type="radio"/> エ	<input checked="" type="radio"/> オ
問2	<input type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input checked="" type="radio"/> ウ	<input type="radio"/> エ	<input type="radio"/> オ
問3	<input checked="" type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input type="radio"/> ウ	<input type="radio"/> エ	<input type="radio"/> オ

横 芝 敬 愛 高 等 学 校

【1】次の問いに答えなさい。

問1 「馬の耳に念仏」と同じ意味を表すものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 犬に論語 イ 井の中の蛙 ウ 鯉の滝登り エ 立つ鳥跡を濁さず オ 牛に引かれて善光寺参り

問2 「起死回生」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 生き物が死んだ後、魂が次の世で別の形に生まれ変わること。
イ 今にもだめになりそうな状態の物事を立て直し、再び盛んにすること。
ウ 多くの失敗にも屈することなく、そのたびに勇気をふるって立ち上がること。
エ 苦痛に耐えることができず、苦しみもだえること。
オ 半分死んで半分生きている不安定な状態のこと。

問3 傍線部の慣用句の使い方が正しいものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 学校の勉強だけでなく、家での勉強も手を抜かないように肝を冷やした。
イ 代役で出場した演奏会を無事に終えることができたので肩を落としたり。
ウ 家族の前ではわがままな弟も他人の前では鯖を讀んでいる。
エ 今日の試合には負けたが、終了間際の得点で二の足を踏んだ。
オ 私たちは信じられないような光景を目の当たりにして目を丸くした。

問4 傍線部の語句について、同じ品詞のものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

問題を解決するためにあらゆる方法を試した。

- ア この気持ちがいわゆる恋というものだ。
イ 卒業を来月に控え、少し寂しくなった。
ウ 友達に誘われて参加した講演会だったが、退屈な話ばかりだった。
エ 不意のできごとに驚かされた。
オ 先週末は久しぶりにゆっくり過ぎすることができた。

問5 次の説明に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

「大切にとってあるお金や品物、とっておきの物」

- ア 雀の涙 イ 牛の歩み ウ 虫の息 エ 虎の子 オ 鳥からすの行水

【2】 傍線部を漢字に直したとき、最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

問6 その考え方は時代サクゴだ。

- ア 搾 イ 作 ウ 索 エ 錯 オ 削

問7 新しい協会は四月にホツソクする。

- ア 速 イ 即 ウ 足 エ 則 オ 束

問8 パソコンがデジタルカメラの普及にハクシャをかけた。

- ア 迫 イ 薄 ウ 博 エ 拍 オ 舶

問9 友人の提案に対して賛成のイコウを表明した。

- ア 考 イ 向 ウ 公 エ 項 オ 交

問10 誤って壊してしまった商品をベンシヨウする。

- ア 賞 イ 商 ウ 証 エ 償 オ 障

【3】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

正岡子規は、重い脊椎カリエスを病んでいた。脊髄をおかされるこの病気は、ただ仰向けに寝ているだけでも、絶え間なく痛みが襲ってくる。あるとき、あまりの苦しさに耐えかねて、彼は自殺まで考える。次の間にはかみそりがある。だが、そこまで這って行くことさえままならぬ身では、それを手にすることもできない。枕元の小刀、いや、原稿用紙をとじるための千枚通しでも役に立とうか……。けれど、死に損なって、もっと苦痛が増すかもしれないと思うと、その決意も、くじけてしまう。あげく、彼は、どうすることもできぬ自分に号泣するのである。

そのような病苦に苛まれる毎日を綴るうちに、あるとき、彼は忽然と、こう悟る。

「余は今迄禅宗の所謂悟りといふ事を誤解して居た。悟りといふ事は如何なる場合にも平気で死ぬる事かと思つて居たのは間違ひで、悟りといふ事は如何なる場合にも平気で生きて居る事であつた」と。

文学においての彼の功績は多々あるが、人間・子規としての最後の結論は、この悟りではないか、と、ぼくは思う。

なぜ、彼はこのような境地に達することができたのであろうか。ぼくは、このような子規の悟りの背景に、彼が提唱した「写生説」への執念をみる。

子規は、月並みな俗流の俳諧に墮していた当時の俳壇に一石を投じ、それまで無視されつづけた蕪村を発見・評価して俳諧革命をおし進めた。とともに『歌よみに与ふる書』を掲げて、こんどは短歌の革新にとりかかる。彼の文学におけるこのような業績のほとんどが、苦しい病床から生み出されたことは、じつに驚嘆に値する。

そうしたやむことのない刷新活動のかたわら、子規は友人や門弟と文学上の議論を戦わせ、時局について論じ、移り変わる庭の風景を味わい、世の中のできごとに飽くなき好奇心を働かせている。そのような毎日の、自分の心の動き、痛みへのたうちまわる刻々の自分の姿に至るまで、彼は内・外世界のすべてを、ありのままに書きとどめた。その病床記録こそ、彼の徹底した写生精神の実践であり、結晶であった。

彼が唱えた「写生説」とは、心に浮かんだことを、そのまま、忠実に書き取る、というものだ。ありのままを描く、という点では、ヨーロッパの文芸理念であるリアリズムと同義のように思えるが、ヨーロッパのリアリズムが「真実味を追究した作為」であるのに対して、子規は、どこまでも、事実在即することを求める。作為を徹底的に排除して、ひたすら事実そのものをめざすのである。

⑥ 彼は、痛いなら痛い、苦しければ苦しい、と書く。自殺しようと思ひ立った自分の心理状態までも、そのまま「写生」するのだ。ありのままを記し、ありのままに描き、ありのままに生きる。そして、自分は痛みに苛まれながらも、与えられた生に「平気で」耐えること、それ

が本当に「生きる」ということなのだ、と気付く。これが最後に子規の到達した境地であった。

では、その「平気」の境地とは何だろう。宗教的なこと regarding 子規は、ほとんど書き残していない。むしろ、仏教の僧侶、キリスト教の神父や牧師らの話を聞いてみたものの、

悟りとは、平気で生きることだ、とさへ書いてある。子規は彼自身の魂の探求のなかで、それを悟ったのだ。悟りとは、平気で生きることだ、とさへ書いてある。子規は彼自身の魂の探求のなかで、それを悟ったのだ。悟りとは、平気で生きることだ、とさへ書いてある。子規は彼自身の魂の探求のなかで、それを悟ったのだ。

かならない。むしろ、そこには仏教や老荘[※]につながる東洋的精神の核がある。この世界、わが生の真実の姿は、虚心に、ただ受け取るもの、という考え、すなわち、「諸法実相」へと通じていよう。

病床のさまざまな事柄^{ことごと}を書き綴^{つづ}る中で、彼は、自分の悟りを特別に強調してはいないが、彼の苦痛^{やまい}を病^びの床から解放したのは、自身で達したこの「悟り」であったにちがいない。

その写生の精神を、何より端的に表現しているのは、枕元に置かれた藤^{ふじ}の一枝を、あるがままに詠^よんだ次のような歌ではなからうか。

瓶^{かめ}にさす藤^{ふじ}の花^{はな}ぶさみじかければたたみの上にとどかさりけり

瓶^{かめ}にさす藤^{ふじ}の花^{はな}ぶさ一^{ひと}ふさはかさねし書^{ふみ}の上に垂^たれたり

森本哲郎 『この言葉!』より

※ 蕪村 … 与謝蕪村。江戸時代中期の俳人。

※ 老荘 … 老子と荘子^{らうし}があらわした中国古代の思想。

問11 傍線部①「れる」と同じ意味で使われているものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 弟は練習を繰り返して自転車に乗れるようになった。

ウ 病院の待合室で自分の名前が呼ばれるのを待った。

オ 三月になり、少しずつ暖かさが感じられるようになった。

問12 傍線部②「この悟り」とはどういうことか。最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 病氣からくる痛みの苦しさに耐えることができず、死を覚悟したこと。

イ 病床にあっても治療方法が見つかることを信じて最後まで希望を持ち続けたこと。

ウ 絶え間なく襲ってくる痛みに苛まれながらも、与えられた生に平気で耐えること。

エ 俳諧や短歌の革新にとりかかり、やむことのない刷新活動に集中すること。

オ 仏教や老荘の思想につながる東洋的精神の核について研究すること。

問13 傍線部③「一石を投じ(る)」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 相手を批判する イ 具体例を示す ウ 常識を覆す エ 強い影響を与える オ 問題を投げかける

問14 傍線部④「驚嘆に価いする」理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 重い病と闘いながら、俳諧改革や短歌の革新という大きな業績を残したから。
イ 禅宗の悟りについてそれまでの誤解を解き、病気の苦しみを克服して潔く死を覚悟したから。
ウ それまで国語学者の間で評価されていなかった与謝蕪村のすばらしさに気づき、世に広めたから。
エ 日本の「写生説」とヨーロッパの「リアリズム」に共通点を見いだし、真実を追究したから。
オ 病苦に耐えることを通して、禅宗の悟りの境地に達することができたから。

問15 傍線部⑤「徹底した写生精神」の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア ヨーロッパの文芸理念であるリアリズムと同じもの。 イ 作為を排除して事実そのものを表現すること。
ウ 仏教やキリスト教について探求すること。 エ 病苦を乗り越えた先にある「平気」の境地。
オ 老荘思想などの東洋的精神から受け取るもの。

問16 ⑥に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア あるいは イ だから ウ しかし エ ところが オ また

問17 ⑦に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 大いに得るものがあった イ 得るものは少なくなかった
ウ 得るものと失うものがあった エ 何かを得ることができた
オ 何も得るところはなかった

問18 ⑧と⑨に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 死・生 イ 痛・病 ウ 病・死 エ 死・病 オ 生・死

【4】次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

二月十四日。忘れもしない月曜日の昼休み。

高校二年の上代叶は、幼馴染みの近衛有咲このえありさに呼び出された。

有咲は二組で叶は一組。家は近所でも、学校ではほとんど話さない間柄だ。

おまけに場所は体育館の裏。

まさか、このシチュエーションは……!?

叶はドキドキしていた。今日は、たいがい男子が最後の審判①のような気分でチョコレートを待っている日だ。

「いきなり、本題に入るけど」

有咲は一切の前置きを省いてきた。

彼女は京美人、大和撫子なでしこという名称がよく似合う、学校でベスト5に入るルックスをしているが、性格はさっぱり、きっぱりしている。クラスメイトの前ではネコを被りかぶ、奥ゆかしくしているものの、幼馴染みの叶の前では隠そうともしない。

有咲はせかせかした態度でこう言った。

「これ、隣の席の藤林ふじはやしくんに渡してほしいの」

胸の前につきつけられたのは、一枚のカード。

一センチの猶予もなく、胸の前にあるカードは拒絶できない。

②面喰めんくらいながら受け取る。

これは「名刺」じゃないか…!?

薄紫を基調にした、可愛いカードだった。名前とメールアドレス、携帯番号が印刷されている。

今、お手製の名刺を渡すのが、学校で流行はやっているのだ。授業でエクセルとワードの使い方を習ったのがきっかけで、女子がそれぞれ、パソコンで名刺を作り、友達同士で配りあった。

そこから発展し、異性に渡すときは特別な意味がある、ということになったのだ。

つまり……これはラブレターを藤林に渡せ、という意味に近い。

このとき叶は、ショックを受けるより先に藤林の顔を思い浮かべた。

「藤林って、あの?」

茶髪の……脚がやたらに長い、イケメン?

「隣の席って言ったら、その藤林くんしかないでしょ」

隣の席でなくても、この学校に「藤林」は一人しかない。

「よく授業、サボってるけど……」

「そんなこと、叶くんに関係ないじゃない」

たしかに藤林がどこで何をしていようと、今まで関心はなかった。繁華街で女子大生をナンパしているという噂を聞いたときも「へえ」としか思わなかった。

でも、今は違う。

「どうして僕が？」

③が同時に襲ってきて、叶は強張った表情で訊いた。「君に片思い中の僕が、どうしてこんな役をしなきゃならないんだ？」と言いたい。……言う勇氣はない。

有咲はまだ叶の気持ちを知らない。

ちゃんと告白しておくんだと思ったでも、後の祭だ。

「決まってるじゃない」

有咲の口調は「そんなこともわからないの？」と言いたげだった。

席が隣だから、とでも言うのだろうか？

「叶くん、人の頼み事、絶対、断らないんでしょ？」

シヨックが過ぎて、落ち込んだ。確かに、叶はたくさんの委員を兼任している。役の押し付け合いになる空気が苦手で、「僕でいいなら」と言ってしまうのだ。

でもこんな役目を引き受けるために、やっていたわけじゃない。

バレンタインデーに、これはあんまりだ。

「何？ 嫌なの？」

と有咲が驚いたように訊く。

「……」

⑦叶が沈黙してしまうと、有咲は少し狼狽えた。彼女はきつと「いいよ」と快諾してくれると思いついていたのだろう。

これが有咲の頼み事であれば、僕だってそうしているよ、と叶は思う。

すると有咲は叶から視線を外し、少しくつむき加減になった。しばらく躊躇っていたが、急に早口で話し出す。

「冬休みに路地裏で捨て猫、見つけたのよ。家には連れて帰れないし、このままじゃ死んでしまいそうだし……困っていたら、藤林くんが通りかかったの。自分、一人暮らしたから、連れて帰るって言ってくれた。猫の様子伝えるから、連絡先、教えてくれて」

だから名刺を渡すことになった、というのだろうか？

「それ、ナンパの常とう手段じゃないの？」

⑧叶の一言に、有咲は頬を赤く染めた。

「そ、それぐらいわかってるわよ。だから、そのときは断ったの。でももう、私の名前とクラス、ばれて……」

それは有咲がベスト5に入る美女だから仕方ない。

問25 傍線部⑦「有咲は少し狼狽えた」理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 今まで隠していた叶に対する気持ちに気付かれてしまったから。
- イ 叶から藤林が授業をサボる生徒だと教えられたから。
- ウ 藤林が繁華街で女子大生をナンパしているという噂を聞いたから。
- エ 有咲の藤林に対する気持ちを叶に知られてしまったから。
- オ 有咲の頼みを叶がすぐに引き受けてくれなかったから。

問26 傍線部⑧「有咲は頬を赤く染めた」ときの有咲の気持ちとして最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 藤林とこれからのように接していくか想像して照れている。
- イ 幼馴染みで信頼している叶に藤林のことを悪く言われて怒りがこみ上げている。
- ウ 藤林が自分のことを知っていてくれたことをうれしいと思っている。
- エ 藤林に声をかけられて舞い上がっている自分を恥ずかしいと感じている。
- オ 思い切って話した自分の依頼を快諾してくれなかった叶にいら立っている。

【5】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

※たひらのぶとぎのあつそん 平宣時朝臣、老いののちに昔語りに、※むかしがた「西明寺入道、ある宵の間に呼ばれることありしに、『やがて』と申しながら、※ひたたれ直垂のなくて、とかくせしほどに、また使ひ来たりて、『直垂などの候はぬにや、夜なれば、異様なりとも、疾く』とありしかば、なえたる直垂、内々のままにてまかりたりしに、銚子に土器取り添へて持て出でて、『この酒を独りたうべむがさうざうしければ、申しつるなり。肴こそなければ。人は静まりぬらむ。さりぬべき物やあると、いづくまでも求めたまへ』とありしかば、紙燭さして、隈々を求めしほどに、台所の棚に、小土器に味噌の少し付きたるを見出でて、『これぞ求め得て候ふ』と申ししかば、『事足りなむ』とて、快く数献に及びて、興に入られはべりき。その世には、かくこそはべりしか」と申されき。

※ 平宣時 … 北条宣時。鎌倉時代の武将・歌人。 ※ 西明寺入道 … 北条時頼。鎌倉幕府第五代執権。 ※ 直垂 … 武士の平服。

※ 銚子 … 酒を入れる食器。 ※ 土器 … 素焼きの杯。 ※ たうべむ … 飲む。 ※ 紙燭 … 照明用具。

